

甘露臺座談會

— 出 席 者 —

- | | |
|-----------|-----------|
| 菅 長 様 | 史料集成部 |
| 山 澤 爲 造先生 | 榊井孝四郎先生 |
| 松村吉太郎先生 | 上田嘉成先生 |
| 高井 猶 吉先生 | 道友社側 |
| 飯降 政 甚先生 | 堀 越 儀 郎 |
| 梶本宗太郎先生 | 中 山 慶 一 |
| 上原 義 彦先生 | 上 田 理 太 郎 |
| | 高 野 友 治 |
| | 出 沖 虎 夫 |

質問要項

歴 史

- 一、「かんろうだい」言葉の起源
 - 一、模型かんろうだいに就て
 - 一、ちば定めの史實
 - 一、ちば定めよりかんろうだい建設に至る變遷
 - 一、石の引き出しより没收に至る經過
- 史實の信仰的解釋
- 一、やがて巻き起らんとする猛烈なる迫害干渉を前にして、七八才と言ふ御高齢に於て敢然としてちば定めを行はれた點に就て
 - 一、御自分に代るべき明確なる信仰の目標を與へる爲に之をお定め下されたと悟り得る點はないか
- かんろうだいの意義
- 一、言葉の意味
 - 一、地場との關係
 - 一、「日本の親」「日本の實」等仰せられてゐるお言葉の意味
 - 一、かんろうを神様とする信仰はないか

言葉の起源

おふでさきの言葉
と おつとめの言葉

おつとめの
變遷

中山 御多用の所わざくお集り頂いてまことに恐縮に存じます。甚粗略では御座居ますが大體御手許に配布させて頂いた様な要項に就て御聞かせ頂き度いと存じます。

先づ「かんろうだい」と言ふお言葉が何時頃から仰せ出されたものであるかをお聞かせ頂き度いと存じます。

山澤 「おふでさき」に書いてあるやろう。

中山 おふでさきに

めつらしいこのよはじめのかんろうだい

これがにほんのをさまりとなる

と仰せ下されてゐますのは明治二年で御座居ますが、これとお勤めのお言葉に現はれてゐる「かんろうだい」なるお言葉が、何れが先きであつたのかを知り度いと存じます。で、お勤めの變遷に就てお話しを願へば大變善い手がかりになると思ひます。

松村 兎に角「一れつすましてかんろうだい」のお勤は明治十五年からと言ふ事になつてゐる。

高井 甘露壺を御造りになる前は「一れつすましてかんろうだい」であつたが、明治十五年かんろうだいをとり上げられてから「一れつすましてかんろうだい」となつたんや。

松村 「いちれつすまして甘露壺」——これが何時頃から出来たのかなあ。

山澤 おつとめもホン最初の問(勤場所の出来た頃)は只「なひてんりわうのみこと」を

最初のおつとめ

二十一編のおつとめ

何回となく繰り返してお唱へする丈であつた。

松村 お勤は廿一編とはつきり決まつたのは、教會本部の設置された時からだらうと思ふ
梶本 辻忠作先生が娘さんの御身上の時、線香が半分なくなるまでお勤めせられたが「つとめ短い」との神様のお言葉で、線香一本にせられたと言ふ話もあるから、おつとめは長い方がよかつたのでせう。

高井 昔は廿一編どころやない百遍位やつてゐたのや。

山澤 まさか百遍もやらなかつたやろうが。

管長様 兎に角長かつたんだね。

飯降 松惠様のお出直しされたのは明治十五年ですが、何時だつたか松惠様がお勤めに出られた事があつて、其時確かに廿一編して居られた様に記憶してゐますから、其頃から廿一編に決つて居たのだと思ひます。

松村 以前の事はよくわからないが、はつきり廿一編と言ふ事になつたのは教會本部設置の時からだと記憶してゐる。

梶本 どう言ふ風にして決まつたのですか。

松村 みんな相談して決めたのだと思ふ。

管長様 理の上から考へてそう言ふ事に決めたんですか。

松村 そうだ、みんな相談の上神様にお伺ひをたてたのです。

勤め場所が出来た頃のおつとめ

高井 いそ、教祖様御存命の時から廿一遍と言ふ事に決つてゐたのや、只三遍づゝ七遍するのや、七遍づゝ三遍するのや判らないので御尋ねしたら、どちらでもよいと仰つたのや。

山澤 やはり教祖様がおいでになつた時からでせう。早くから三遍は三ツ身につく理、七遍は何言はいてもよいと言ふ理の上から三、七廿一遍と言ふ事を仰せになつて居られた。

松村 勿論そう言ふお話は前から仰せられてゐたのだが、それを確定的に實行さして頂く事に決めたのは、教會本部が置かれるやうになつた時だつたと思ふ。

山澤 勤場所が出来た頃は何時も秀司先生が慈になつてお勤めをして居られた。秀司先生のお出ましにならない時は山中忠七さんが代りに勤められた。其姿を私はよく憶えて居ります。お勤めが済むと正面に坐つて御供さんを渡して居られた。なんでも私は未だ小供で池に這入つて耳だれが出て困つてゐたら、忠七さんが「池へ這入つたらいかんで」と言ふて御供さんを下さつた事を覚えてゐます。其頃は、はつたい粉の御供で、散樂と言ふてゐた。

高井 はつたい粉の中へ粟を交せると疑はれ、いかんと言はれたので金平糖になつたのやつたなあ。

山澤 其頃のお勤めは『なむてんりわうのみこと』と唱へながら拍子木をたゝいてゐた。そのお勤めが済むと教祖様と小寒様が北の上段の間におでましになつてお話し下さつた。どちらかお一人しかおでましにならない事もあつた。教祖様のお話はせわしいお話で水を流す様でした。

神樂面や鳴物入りの最初のおつとめ

中山 「あしきはらひ助け給へてんりわうのみこと」と唱へて、参拜者も一所に拍子木をたゝいてお勤めをして居られた時代があると聞かして頂いて居りますが、それは何時頃からですか。

山澤 高井さんの信仰は何年頃かな。

高井 明治十二年やがな。本部へ来たのは十九の時や。

山澤 一寸はなしのお勤が出来たのは明治七、八年頃かと思ふ。

松村 お神樂面や鳴物道具の揃つたお勤が行はれる様になつたのは明治七年だ。其年の六月十八日、お地場から十一人の人衆が御生家に来られて、お神樂勤めと十二下りのお勤めをせられたと云ふ事が、三味田の古い書類の中から出て来た。

梶本 其時山澤の母も一緒に居つたそうです。

山澤 其頃私は一時お屋敷へ寄せて頂くのを怠つてゐました。そして明治十年に身上におさわりを頂いて再び寄せて貰つた時辻忠作さんが「ちよとはなし」のお勤めのお手を教へて下さつた事を憶えて居ります。だからなんでも私の参拜を怠つてゐた間に「ちよとはなし」のお手が出来てゐたんだと思ひます。

松村 明治十二年に松田正造が柏原分署へ拘留されたのは、お勤をした罰だつたと言ふから、もう其頃には揃つたお勤めが出来てゐたのだらう。

山澤 はつきりした事は言へないが明治七、八年から十年迄の間に出来上つたものゝ様に

模型甘露臺

小寒様の御身上
と模型甘露臺

思ひます。

管長様 兎に角「かんろうだい」と言ふお言葉は相當古くから言はれて居たと思はれるが、何處まで遡り得るかと言ふ事は古い文獻を出来る丈け廣く漁つて見るより仕方がないだらう。

中山 それでは次に模型かんろうだいの事に就いてお話を聞かして頂きませう。

高井 模型のかんろうだいは、わしら信仰に這入つた時分（明治十二年）には雨うたしてだいぶ古くなつて居たで。

山澤 あれは明治六年に教祖様の言ひつけで本席さんがお造りになつたものや。其後倉の中へ入れてあつたのを明治八年に出して來られたのや。

中山 明治八年になつて出してこられたと言ふのはどう言ふわけで御座居ますか。

山澤 それは小寒様がお身上になられた時お願い動をするに就いて出して來られたのです。

榊井 私もそう聞かして貰つて居ります。

中山 小寒様が御身上になられたと言ふのはちばの定めの後ですか。

榊井 そうです。

中山 すると明治八年六月のおふでさきに

一月日よりびでた事をきいたなら

かんろうだいはやくだすよふ

と仰せられてゐるお歌は、其史實と關連するものですか。

模範甘藷壺の大
模範

模範甘藷壺と櫛
模範

模範甘藷壺と地
場定め

榊井 それは大きい將來のかんろうだい建設をおせき込みになつたものと悟らして頂きま
す。

高井 あの模範は上と下とになんでも直徑一尺二寸、厚さ三寸位の六角の板があり、中は直徑
三寸、長さ六尺位の柱になつてゐたと思ふ。だいぶ古くなつてゐたなあ。

山澤 そうや、わしの父が身上の爲め水も通らん様になつてお願ひして貰つたのはあのかんろ
うだいに對してやつた。

中山 地場定めの後、其目標として高さ六尺、直徑三寸の六角の杭が打つてあつたと言ふ事を
聞いて居りますが、それと模範のかんろうだいは同じものですか。

高井 そうや。

松村 私は本席様の造られた模範は別にあつた様にも思ふが。

中山 私達は模範と言ふ言葉に捕はれます爲か、明治六年に本席様のお造りになつた模範と言
ふのは實物通りの形を縮少されたもので、お居間か何處かにお祭りになつて居られたもの
様に考へて居りましたが。

山澤 そら模範と言ふてもきちんとしたものではなく、まん中はほん柱の様なもので、只
一番上と一番下だけが直徑一尺二寸、厚さ三寸に作られてあつたのや。

管長様 昔から甘藷壺のお話をして居られて、それはこんなものだと言つてお造らせになり
ちばを定められて後それを其地點に据えておかれたものか、それはそれとして別に地場のしる

ちば定めの
史實

しとして六角の杭を打つておかれたものか、話が二つになつて居る様であるが、それは充分記録に依つて研究して見なければいかん。

中山 それでは次のちば定めの史實をお聞かせ下さい。

山澤 ちば定めをなさつたのは明治八年五月廿六日や。

中山 聞かして頂いてゐる所によりますと、親様はなんでもちば定めの前日、即ち廿五日から「あすは命日であるからよく掃除をして置く様に」と仰有つてちやんと掃き清めさしておかれたと言ふ事でありませんが。

山澤 そらそうですやらう。

管長様 其當時から廿六日が命日と決められてあつたのか。

山澤 それは勤場所の建つ以前からちやんと決まつて居りました。

中山 其日お勤めが終つてからお定めになつたのでせうか、それとも、ちばを定めてからお勤めにかゝられたのでせうか。

管長様 そんな事はなく、はつきりしないだらう。第一今日のお勤めを頭において其當時のお勤めを考へると言ふ事は無理だ。

高井 あの時ほんとに足の留まつたのは教祖様と、さよみ(仲田儀三郎)さんと、留菊(辻忠作氏息女)さんの三人や。最初に教祖さんがお歩きになつて踏み留まられた所にしるし

ちば定めの日の
模様

甘露臺の意

甘露臺の言葉の
意味

を付けておかれて、さよみさんに歩いて見よと仰しやつた。さよみさんが目かくしをして歩いたら同じ所で足がひつゝいた。辻さんは同じ様に歩いて見たがどうしてもひつゝかん。つまり因縁がなかつたんや。そこで留菊さん(三歳)を負ふて歩いて見たらひつゝいた。まともにひつゝいたのは此三人だけや。

中山 留菊さんを負ふて歩かれたと言ふのは辻先生の奥さんと違ひますか。

高井 そうや。つまり子に因縁があつたんや。

松村 史實はいくら聞いてもわかつてゐる丈の事しかわからんで。それ以上は記録を探すより仕方がない、なんでも明治廿四年に當時本部にゐたものが、昔のことを考へ合せて書いたものが本部にある筈だが。

中山 それではだいぶ時間も立ちましたから、歴史の方は記録に依つて充分研究さして頂く事に致しまして、甘露臺の意義の方に移らして頂きます。

先づ甘露臺と言ふ言葉の意味からお聞かせ願ひます。

山澤 甘露臺は人間始めた元の證據に立てるのやと仰有つた。

高井 なんて甘露臺と言ふのか聞いてんねやろ。

山澤 人の心が神の教の通り澄み切つたら即ちその心は甘い心や。其時になつて降るものであるから甘露と言ふのやろ。

致和神様のお話に
よる甘露臺の言
葉の意

松村 そら信仰的に悟つて行けばそう言ふ事になる。

管長様 天から下さる甘露を受ける臺、ちきもつを受ける臺と言ふ意味であらうが、何か其外に教祖様から聞いてゐませんか。

高井 山澤はん、あんた聞いてるやろ。

山澤

管長様 高井さん何か聞いてゐるのか。

高井 聞いてます。話しませうか。甘露臺と言ふのは肝腎要と言ふ事や。息の切れる時は人間の肝腎要の時や、肝腎要の壽命をつなく臺や。「かんじんかなめの繼ぐかんろ」と言ふ事を仰有つた。三十一ヶ所のうちわが場所を廻つて來ると、いざりでも、めくらでも、おしでもなんでも御守護を頂く。而かもかつかつたからと言ふて中途で杖を捨てたらあかん。車を捨てたらあかん。三十一ヶ所廻り終つて杖を持ち、車にのつて廻る。そして最後にやさしきに歸つて杖も、車もおさめる。そこで百十五歳の定命を頂くのである。人間は生れた時に定命がある。五十とか六十とか。それが甘露を頂戴すると百十五歳まで引き延ばして貰へる。その生れた時に定まつた壽命と百十五歳の定命と繼ぎ更へして頂くかんじんかなめの繼ぐかんろや。臺はそれを降す臺。

そんなら今からはしいと言ふやらう。今でも興へんと言ふ事はない。けれども手引けなんだらなんにもならん。と仰有つた。つまり頂こうと思ふても頂けん者があると言ふ事を言はれた

甘露園の理

のや。

甘露園の六角といふのは、岐様に月様の心入込んで、これに月讀命様の理を仕込み、美様に日様の心入込んで、これに國狹土命様の理を仕込み、人間を産み下ろして下さつた。それ故にこれを六臺の神様と言ふ。其理を現はしてかんろう臺はどの段も皆六角。

八寸といふは、この六柱に洗ひ更への道具大食天命と大戸邊命を入れた八柱の理。
二尺四寸は四、二寸。四、二尺。四、二間の理。

一尺二寸は面足命の頭十二の理を現はしたも。刻限話と言ふのは其頭から頭へ移り廻らる時に下さるのである。其時には筆々とおつしやつて、其時はづしたらもう聞けなんだ。眞中十段積み上げるのは十柱の神様お揃ひになつた理。

ねえ、これはみんな聞いているやろ。教祖様からも聞して貰つたが、さよみさんからも何度も聞いた。こんな大事な事は滅多に忘れへん。

その時分はくだい程話を聞いた。それで、みんなから内から来る高井と言ふ奴は進みたいな男や、根ばつかり掘りよる。と言はれた。しまひに辻さんなんかも「お前にはもう話す事がない」と言ふて逃げられた。

うらわけ處所

管長様 三十一ヶ所と言ふのは。

高井 國々入れて九十三ヶ所です。三十一ヶ所は屋敷のぐるり、其内一ヶ所は遠い所らしい。遠いからと言ふて放つておいたら又始めから廻り直しや。

甘露臺と地
場との關係

親
甘露臺は日本の

松村 うちわけ場所はおよしきの六里以内に出来るのやないか。
高井 それは決つてゐない。一ヶ所毎に七十五人の人衆がいると聞いてゐる。
松村 要するに天から甘露を受ける臺といふ意味やな。
高井 百十五歳から向ふは又心次第で十年と言へば十年、二十年と言へば二十年延してやると仰つた。

中山 神様は人間始め出した親里の證據としてかんろうだいを据ゑておくと言ふ事をはつきり仰せになつて居ります。そのお仰せに依りますと、ちばに重點があるのであつて、かんろうだいは其しるしであるといふ事になります。

然し一方に於て又かんろうだいは「日本の親」であるとお言葉もあつて、かんろうだいのものに尊い理のある事も悟れます。勿論兩方の意味があるのでせうけれど、之等の點に就いて詳しくお聞かせ頂き度いと存じます。

高井 甘露臺は人間始めた元のやしきであると言ふ證據に建てられるのであるが、其甘露臺は又人間創造の理をかたどつたものや。

管長様 甘露臺が日本の親であると仰せられてゐるお言葉に就いて何か聞いてゐませんか。

松村 それは泥海古記から説いて來たらわかると思ひます。然し人間を創造された所と言ふ上から、ちばが親であり、神名の授けられてゐる處である。

ちばが元

ちばの感服

ちばの理の顯彰

高 井 日本丈けやない世界の親や。

松 村 日本は本家や、本家の親であれば當然分家の親や、日本が世界を代表してゐるのや

山 澤 ちばが根本で其しるしとして甘露臺をお建てになつたのやから地場が元や。

松 村 どうしてもちばが根本やと思ふ。

管長様 地場を離れては甘露臺は其意義を失なつて了ふ。人間を御創造下された元の親里たる證據にお建てになつたものであると言ふ點からすれば、ちばが元であり親であつて甘露臺は其標識と言ふ事になる。然し元來ちばと言ふ言葉は甘露臺といふ様な特殊な言葉ではなく唯、場所を意味する普通名詞である。「いざなぎといざなみのみのうちよりのほんまんなかや」と仰せられた、そのほんまんなかの場所を指された普通名詞である。所がこれが親様に依つて使はれてから、其ほんまんなかの所即ち人間創造の地點のみを指す固有名詞となつて、深い信仰的な意味内容を盛られて來たものであるが、元來が土地、場所と言ふ意味の普通名詞である丈に悟り方に依つて其範圍が廣くなつたり、狭くなつたりする。

山 澤 ちばと言ふのは岐様と美様がお休みになつた。頭の先きから足の先きまでの間で、甘露臺は其ほんまんなかで、蕊の所に建つのでや。

管長様 嚴密に言へば人間創造の中心地點、即ち人類の生れ出した、岐様と美様の身の内のほんまんなかの處である。所がこれが悟り方に依つて、お屋敷全體になつたり、お屋敷の擴張に従つて擴大されたり、三島地方全體の呼稱になつたりしてゐる。それは丁度善通寺、法隆

創造の理の表裏

寺等の如く最初は寺の名前であつたものが終に寺の建つて居る町全體の名前になつて了つてゐる様なものに似てゐる。それは必ずしも悪いと言ふのではないが、教理的に嚴密に言へば何處までも一の神のほんまんなかの所である。

それが甘露臺といふ特殊な言葉に依り、又其人類創造の理を表象した形に依つて、地場の地點を明かにされてゐると共に地場の理を顯彰され強化されてゐるのである。此の意味に於てかんろう臺には重大な意義が籠つてゐる譯である。

然もそれは又天より親に渡されるちきもつを受ける臺である。此意味に於てそれは單なる地場の標識としての役目丈ではなく、人類の親としての理を充分に感じさして頂く事が出来るのである。

上原 甘露臺は實に其形に於いて萬有創造の理を現はされてゐる。即ちそれは絶えず物を創造する意味を表象されてゐるのであつて、此處に「きりなしふしん」と仰せられた理も悟れるし、又「かんろうだいが親である」と仰せられたお言葉の意味も悟れて來るのではないかと思ふ。

松村 こう言ふ事は論じ出せば際限もないが、だいふ時間も経つた様であるからこれ位にしておいては如何だ。

中山 それではこれ位にして散會として頂きます。どうも御多用の中、長らく結構なお話を頂きまして誠にありがたう存じます。

附

記

斯くて座談四時間に亘り薄暮迫る頃盛大裡に散會致しました。雛型かんろうだいの建設され
た今日の時句として寔に意義深いお話でありました。中心に示されたる理を充分に悟らして頂
きお互の魂の糧にして行き度いと存じます。

尚話は此外各方面に飛び、御教祖御存命當時のちばの有様を眼前に見る様な逸話等も、数々
お聞きする事が出来たのでありますが、本筋に關係がないので止むを得ず割愛させて頂きまし
た。

最後に一言申し添へておき度いのは、中に語られてゐる事柄や、信仰は正味のものばかりで
ありますが、史實の年號文は或は御記憶に誤りあるかも知れないと言ふ事があります。此點
は何れ文獻を参照して充分研究さして頂かねばなりません。何等の参考書類も御携帯にならず
只御記憶を辿つてお話し下されたものでありますから此點だけは止むを得ないと思ひます。

然し昔の道の味ひを生きくと感じさして頂いたと言ふ事はなんとしても大きな收穫であり
ました。只紙面にそれが充分現はせなかつたと云ふ事は速記者の罪であります。此點深くお詫
び申し上げます。(中山)

質問要項

歴史

- 一、『かんろうだい』言葉の起源
- 一、模型かんろうだいに就いて
- 一、ちば定めの史実
- 一、ちば定めよりかんろうだい建設に至る変遷
- 一、石の引き出しより没収に至る経過

史実の信仰的解釈

- 一、やがて巻き起らんとする猛烈なる迫害干渉を前にして、七十八才と言う御高齢に於て敢然としてちば定めを行なわれた点に就いて
- 一、御自分に代わるべき明確なる信仰の目標を与える為にこれをお定め下されたと悟り得る点はないかかんろうだいの意義
- 一、言葉の意味
- 一、ちばとの関係
- 一、『日本の親』『日本の宝』等仰せられているお言葉の意味
- 一、かんろうだいを神様とする信仰はないか

言葉の起源

中山 御多用の所わざわざお集り頂いてまことに恐縮に存じます。甚粗略では御座居ますが大体御手許に配布させて頂いたような要項に就いて御聞かせ頂き度いと存じます。先づ『かんろうだい』と言うお言葉が何時頃から仰せ出されたものであるかをお聞かせ頂き度いと存じます。

山沢 『おふでさき』に書いてあるやろう。

中山 おふでさきに

めつらしいこのよはじめのかんろうだい

これがほんのをさまりとなる

と仰せ下されていますのは明治二年で御座居ますが、これとお勤めのお言葉に現われている『かんろうだい』なるお言葉が、何れが先きであったのかを知り度いと存じます。でお勤めの変遷に就いてお話しを願えば大変善い手がかりになると思えます。

松村 兎に角『いちれつすましてかんろうだい』のお勤めは明治十五年からと言う事になっている。高井 甘露台を御造りになる前は『いちれつすますかんろうだい』であったが、明治十五年かんろうだいをとり上げられてから『いちれつすましてかんろうだい』となったんや。松村 『いちれつすますかんろうだい』——これが何時頃から出来たのかなあ。

山沢 おつとめもホン最初の問（勤め場所の出来た頃）は只『なむてんりわうのみこと』を何回となく繰り返してお唱えするだけであった。

おふでさき
の言葉とお
つとめの言
葉

おつとめの
変遷

最初のおつとめ

松村 お勤めは二十一遍とはつきり決まったのは、教会本部の設置された時からだろうと思う。
梶本 辻忠作先生が娘さんの御身上の時、線香が半分なくなるまでお勤めせられたが『つとめ短
い』との神様のお言葉で、線香一本にせられたと言う話もあるから、おつとめは長い方がよかったの
でしょう。

高井 昔は二十一遍どころやない百遍位やっていたのや。
山沢 まさか百遍もやらなかったやろうが。

管長様 兎に角長かったんだね。

飯降 松恵様のお出直しされたのは明治十五年ですが、何時だったか松恵様がお勤めに出られた事
があつて、その時確かに二十一遍して居られたように記憶していますから、その頃から二十一遍に決
つて居たのだと思います。

松村 以前の事はよくわからないが、はつきり二十一遍と言う事になったのは教会本部設置の時か
らだと記憶している。

梶本 どう言う風にして決まったのですか。

松村 みんな相談して決めたのだと思う。

管長様 理の上から考えてそう言う事に決めたんですか。

松村 そうだ、みんな相談の上神様にお伺いをたてたのです。

高井 いや、教祖様御存命の時から二十一遍と言う事に決っていたのや、只三遍づつ七遍するの
か、

七遍づつ三遍するのかわからないので御尋ねしたら、どちらでもよいと仰有ったのや。
山沢 やはり教祖様がおいでになった時からでしょう。早くから三遍は三ツ身につく理、七遍は何
言わいでもよいと言う理の上から三、七二十一遍と言う事を仰せになって居られた。

松村 勿論そう言うお話は前から仰せられていたのだが、それを確定的に実行させて頂く事に決め
たのは、教会本部が置かれるようになった時だったと思う。

勤め場所が
出来た頃の
おつとめ

山沢 勤め場所が出来た頃は何時も秀司先生が芯になってお勤めをして居られた。秀司先生のお出
ましにならない時は山中忠七さんが代りに勤められた。その姿を私はよく憶えて居ります。お勤めが
済むと正面に坐つて御供さんを渡して居られた。なんでも私は未だ子供で池に入って耳だれが出て困
っていたら、忠七さんが『池へ入ったらいかんで』と言うて御供さんを下さった事を覚えています。
その頃は、はったい粉の御供で、散薬と言っていた。

高井

はったい粉の中へ薬を交ぜると疑われ、いかんと言われたので金平糖になったのやったなあ。
山沢 その頃のお勤めは『なむてんりわうのみこと』と唱えながら拍子木をたたいていた。そのお
勤めが済むと教祖様と小寒様が北の上段の間におでましになってお話し下さった。どちらかお一人し
かおでましにならない事もあった。教祖様のお話はせわしいお話で水を流すようでした。
中山 『あしきはらひたすけたまへてんりわうのみこと』と唱えて、参拝者も一緒に拍子木をたた

いてお勤めをして居られた時代があると聞かして頂いて居りますが、それは何時頃からですか。
山沢 高井さんの信仰は何年頃かな。

神楽面や鳴物入りの最も初のおつめ

高井 明治十二年やがな。本部へ来たのは十九の時や。

山沢 ちよとはなしのお勤めが出来たのは明治七、八年頃かと思う。

松村 お神楽面や鳴物道具の揃ったお勤めが行なわれるようになったのは明治七年だ。その年の六月十八日、おちよから十一人の人衆が御生家に来られて、お神楽勤めと十二下りのお勤めをせられたと言う事が三昧田の古い書類の中から出て来た。

梶本 その時山沢の母も一緒に行ったそうです。

山沢 その頃私は一時お屋敷へ寄せて頂くのを怠っていました。そして明治十年に身上におさわりを頂いて再び寄せて貰った時辻忠作さんが『ちよとはなし』のお勤めのお手を教えて下さった事を憶えて居ります。だからなんでも私の参拝を怠っていた間に『ちよとはなし』のお手が出来ていたんだと思います。

松村 明治十二年に松田正造が柏原分署へ拘留されたのは、お勤めをした罰だったと言うから、もうその頃には揃ったお勤めが出来ていたのだろう。

山沢 はっきりした事は言えないが明治七、八年から十年迄の間に出来上ったもののように思います。

管長様 兎に角『かんろうだい』と言うお言葉は相当古くから言われて居たと思われるが、何処まで遡り得るかと言う事は古い文献を出来るだけ広く漁って見るより仕方がないだろう。

中山 それでは次に模型かんろうだいの事に就いてお話を聞かして頂きましょう。

模型甘露台

高井 模型のかんろうだいは、わしら信仰に入った時分(明治十二年)には雨うたしでだいぶ古くなって居たぞ。

山沢 あれは明治六年に教祖様の言いつけで本席さんがお造りになったものや。その後倉の中へ入れてあったのを明治八年に出して来られたのや。

中山 明治八年になって出してこられたと言うのはどう言うわけで御座居ますか。

山沢 それは小寒様がお身上になられた時お願い勤めをするに就いて出して来られたのです。

梶本 私もそう聞かして貰って居ります。

中山 小寒様が御身上になられたと言うのはちよば定めの後ですか。

梶本 そうです。

中山 すると明治八年六月のおふでさきに
月日よりとびでた事をきいたなら
かんろうだいをばやくだすよふ
と仰せられているお歌は、その史実と関連するものですか。

高井 それは大きい将来のかんろうだい建設をおせき込みになったものと悟らして頂きます。

山沢 あれは模型は上と下とになんでも直径一尺二寸、厚さ三寸位の六角の板があり、中は直径三寸、長さ六尺位の柱になっていたと思う。だいぶ古くなっていたなあ。

山沢 そうや、わしの父が身上の為水も通らんようになってお願いして貰ったのはあのかんろうだ

小寒様の御身上と模型甘露台

模型甘露台の大きさ

模型甘露台
と榎杭

いに対してやった。

中山 ちば定めの後、その目標として高さ六尺、直径三寸の六角の杭が打ってあったと言う事を聞いて居りますが、それと模型のかんろうだいとは同じものですか。

高井 そうや。

松村 私は本席様の造られた模型は別にあつたようにも思うが。

中山 私達は模型と言う言葉に捕われますが、明治六年に本席様のお造りになった模型と言うのは実物通りの形を縮少されたもので、お居間か何処かにお祭りになって居られたもののように考えて居りましたが。

山沢 そら模型と言うてもきちんとしたものではなく、まん中はほん柱のようなもので、只一番上と一番下だけが直径一尺二寸、厚さ三寸に作られてあつたのや。

管長様 昔から甘露台のお話をして居られて、それはこんなものだと言ってお造らせになりちばを定められて後それをその地点に据えておかれたものか、それはそれとして別にちばのしるしとして六角の杭を打っておかれたものか、話が二つになって居るようであるが、それは充分記録に依って研究して見なければいかん。

模型甘露台
とちば定め

ちば定め
の史実

中山 それでは次のちば定めの史実をお聞かせ下さい。

山沢 ちば定めをなさつたのは明治八年五月二十六日や。

中山 聞かして頂いている所によりますと、教祖様はなんでもちば定めの前日、即ち二十五日から、『あすは命日であるからよく掃除をして置くように』と仰有ってちゃんと掃き清めさしておかれたと言う事でありますが。

山沢 そらそうですやろう。

管長様 その当時から二十六日が命日と決められてあつたのか。

山沢 それは勤め場所の建つ以前からちゃんと決まって居りました。

中山 その日お勤めが終つてからお定めになつたのでしょうか、それとも、ちばを定めてからお勤めにかかられたのでしょうか。

管長様 そんな事はなかなかはっきりしないだろう。第一今日のお勤めを頭においてその当時のお勤めを考えると言う事は無理だ。

ちば定め
の日の模様

高井 あの時はんとに足の留まつたのは教祖様と、さよみ（仲田儀三郎）さんと、留菊（辻忠作氏息女）さんの三人や。最初に教祖さんがお歩きになって踏み留まられた所にしるしを付けておかれて、さよみさんに歩いて見よと仰しやつた。さよみさんが目かくしをして歩いたら同じ所で足をひつつかた。辻さんは同じように歩いて見たがどうしてもひつつかん。つまり因縁がなかつたんや。そこで留菊さん（三歳）を負うて歩いて見たらひつつかつた。まともにはひつつかつたのはこの三人だけや。

中山 留菊さんを負うて歩かれたと言うのは辻先生の奥さんと違いますか。
高井 そうや。つまり子に因縁があつたんや。

松村 史実はいくら聞いてもわかっているだけの事しかわからんで。それ以上は記録を探すより仕方がない、なんでも明治二十四年に当時本部にいたものが、昔のことを考え合わせて書いたものが本部にある筈だが。

甘露台の意義

中山 それではだいぶ時間も立ちましたから、歴史の方は記録に依って充分研究さして頂く事に致しまして、甘露台の意義の方に移らして頂きます。

先づ甘露台と言う言葉の意味からお聞かせ願います。

甘露台の言葉の意味

山沢 甘露台は人間始めた元の証拠に立てるのやと仰有った。
高井 なんで甘露台と言うのか聞いてんねやろ。

山沢 人の心が神の教の通り澄み切ったら即ちその心は甘い心や。その時になって降るものであるから甘露と言うのやろ。

松村 そら信仰的に悟って行けばそう言う事になる。

管長様 天から下さる甘露を受ける台、ぢきもつを受ける台と言う意味であろうが、何かその外に教祖様から聞いていませんか。

高井 山沢はんあんた聞いてるやろ。

山沢

管長様 高井さん何か聞いているのか。

教祖様の話による甘露台の言葉の意義

高井 聞いてます。話しましょうか。甘露台と言うのは肝腎要と言う事や。息の切れる時は人間の肝腎要の時や、肝腎要の寿命をつなく台や。『かんじんかなめの継ぐかんろ』と言う事を仰有った。三十一カ所のうちわけ場所を廻って来ると、いざりでも、めくらでも、おしでもなんでも御守護を頂く。しかも助かったからと言うて途中で杖を捨てたらあかん。車を捨てたらあかん。三十一カ所廻り終るまで杖を持ち、車にのって廻る。そして最後におやしきに帰って杖も、車もおさめる。そこで百十五歳の定命を頂くのである。人間は生まれた時に定命がある五十とか六十とか。それが甘露を頂戴すると百十五歳まで引き延ばして貰える。その生れた時に定まった寿命と百十五歳の定命と継ぎ更えて頂くかんじんかなめの継ぐかんろや。台はそれを降ろす台。

甘露台の型の理

そんなら今からほしいと言うやろ。今でも与えんと言う事はない。けれども手引けなんたらなんにもならん。と仰有った。つまり頂こうと思うても頂けん者があると言う事を言われたのや。

甘露台の六角というのは、岐様に月様の心入込んで、これに月読命様の理を仕込み、美様には日様の心入込んで、これに国狭土命様の理を仕込み、人間を産み下ろして下さった。それ故にこれを六台の神様と言う。その理を現わしてかんろう台はどの段も皆六角。

八寸というは、この六柱に洗い更えの道具大食天命と大戸辺命を入れた八柱の理。
二尺四寸は四、二寸。四、二尺。四、二間の理。

一尺二寸は面足命の頭十二の理を現わしたものの、刻限話と言うのはその頭から頭へ移り変わられる時に下さるのである。その時には筆々とおっしゃって、その時はずしたらもう聞けなんだ。

真中十段積み上げるのは十柱の神様お揃いになった理。

ねえ、これはみんな聞いているやろ。教祖様からも聞かして貰ったが、さよみさんからも何度も聞いた。こんな大事な事は滅多に忘れへん。

その時分はくどい程話を聞いた。それで、みんなから河内から来る高井と言う奴は逆みたいな男や、根ばっかり掘りよる。と言われた。しまいに辻さんなんか『お前にはもう話す事がない』と言うて逃げられた。

うちわけ場
所

管長様 三十一カ所と言うのは。

高井 国々入れて九十三カ所です。三十一カ所は屋敷のぐるり、その内一カ所は遠い所らしい。遠いからと言うて放っておいたら又始めから廻り直しや。

松村 うちわけ場所はおやしきの六里以内に来るのやないか。

高井 それは決っていない。一カ所毎に七十五人の人衆がいると聞いている。

松村 要するに天から甘露を受ける台という意味やな。

高井 百十五歳から向うは又心次第で十年と言えば十年、二十年と言えば二十年延してやると仰有った。

甘露台とち
ばとの関係

中山 神様は人間始め出した親里の証拠としてかんろうだいを据えておくと言う事ははっきり仰せになって居ります。そのお仰せに依りますとちばに重点があるのであって、かんろうだいはそのしる

しであるという事になります。

然し一方に於いて又かんろうだいは『日本の親』であるとのお言葉もあって、かんろうだいのそのものに尊い理のある事も悟れます。勿論両方の意味があるのでしようけれど、これ等の点に就いて詳しくお聞かせ頂き度いと存じます。

高井 甘露台は人間始めた元のやしきであると言う証拠に建てられるのであるが、その甘露台は又人間創造の理をかたどったものや。

管長様 甘露台が日本の親であると仰せられているお言葉に就いて何か聞いていませんか。

松村 それは泥海古記から説いて来たらわかると思えます。然し人間を創造された所と言う上から、ちばが親であり、神名の授けられている処である。

高井 日本だけやない世界の親や。

松村 日本は本家や、本家の親であれば当然分家の親や、日本が世界を代表しているのや。

ちばが元 山沢 ちばが根本でそのしるしとして甘露台をお建てになったのやからちばが元や。

松村 どうしてもちばが根本やと思う。

ちばの意義

管長様 ちばを離れては甘露台はその意義を失なつて了う。人間を御創造下された元の親里たる証拠にお建てになったものであると言う点からすれば、ちばが元であり親であつて甘露台はその標識しるしと言う事になる。然し元来ちばと言う言葉は甘露台というような特殊な言葉ではなく唯、場所を意味する普通名詞である。『いざなぎといざなみのみのうちよりのほんまんなかや』と仰せられた、そのほ

んまんなかの場所を指された普通名詞である。所がこれが教祖様に依って使われてから、そのほんまんなかの所即ち人間創造の地点のみを指す固有名詞となつて、深い信仰的な意味内容を盛られて来たものであるが、元来が土地、場所と言う意味の普通名詞であるだけに悟り方に依つてその範囲が広くなつたり、狭くなつたりする。

山沢 ちばと言うのは岐様と美様がお休みになった。頭の先きから足の先きまでの間で、甘露台はそのほんまんなかで、芯の所に建つものや。

管長様 厳密に言えば人間創造の中心地点、即ち人類の生れ出した、岐様と美様の身の内のほんまんなかの処である。所がこれが悟り方に依つて、お屋敷全体になつたり、お屋敷の拡張に従つて拡大されたり、三島地方全体の呼称になつたりしている。それは丁度善通寺、法隆寺等の如く最初は寺の名前であつたものが終に寺の建つて居る町全体の名前になつて了つて居るようなものに似ている。それは必ずしも悪いと言うのではないが、教理的に厳密に言えば何処までも一の神のほんまんなかの所である。

それが甘露台という特殊な言葉に依り、又その人類創造の理を表象した形に依つて、ちばの地点を明かにされていると共にちばの理を顕彰され強化されているのである。この意味に於てかろう台には重大な意義が籠っている訳である。

然もそれは又天より親に渡されるちきもつを受ける台である。この意味に於いてそれは単なるちばの標識としての役目だけではなく、人類の親としての理を充分に感じさして頂く事が出来るのである。

創造の理の
表象

上原 甘露台は実にその形に於いて万有創造の理を現わされている。即ちそれは絶えず物を創造する意味を表象されているのであつて、此処に『きりなしふしん』と仰せられた理も悟れるし、又『かろうだいが親である』と仰せられたお言葉の意味も悟れて来るのではないかと思う。

松村 こう言う事は論じ出せば際限もないが、だいたい時間も経つたようであるからこれ位にしておいては如何だ。

中山 それではこれ位にして散会させて頂きます。どうも御多用の中、長らく結構なお話を頂きまして誠にありがとうございます。

斯くて座談四時間に亘り薄暮迫る頃盛大裡に散会致しました。雛型かろうだいの建設された今日の時句として寔に意義深いお話でありました。中心に示されたる理を充分に悟らして頂きお互の魂の糧にして行き度いと存じます。

尚話はこの外各方面に飛び、御教祖御存命当時のちばの有様を眼前に見るような逸話等も、数々お聞きする事が出来たのでありますが、本筋に関係がないので止むを得ず割愛させて頂きました。

最後に一言申し添えておき度いのは、中に語られている事柄や、信仰は正味のものばかりであります。史実の年号だけはあるいは御記憶に誤りあるかも知れないと言う事があります。この点は何れ文献を参照して充分研究させて頂かねばなりません。何等の参考書類も御携帯にならず只御記憶を辿ってお話し下されたものでありますからこの点だけは止むを得ないと思ひます。

然し昔の道の味わいを活き活きと感じさして頂いたと言う事はなんとしても大きな収穫でありました。只紙面にそれが充分現わせなかつたと言う事は速記者の罪であります。この点深くお詫び申し上げます。(中山)